



学術情報基盤を支えるシステムと制度のこれから

国立情報学研究所における 次期目録所在情報サービスの検討状況

これからの学術情報システム構築検討委員会事務局

国立情報学研究所 村上 遥

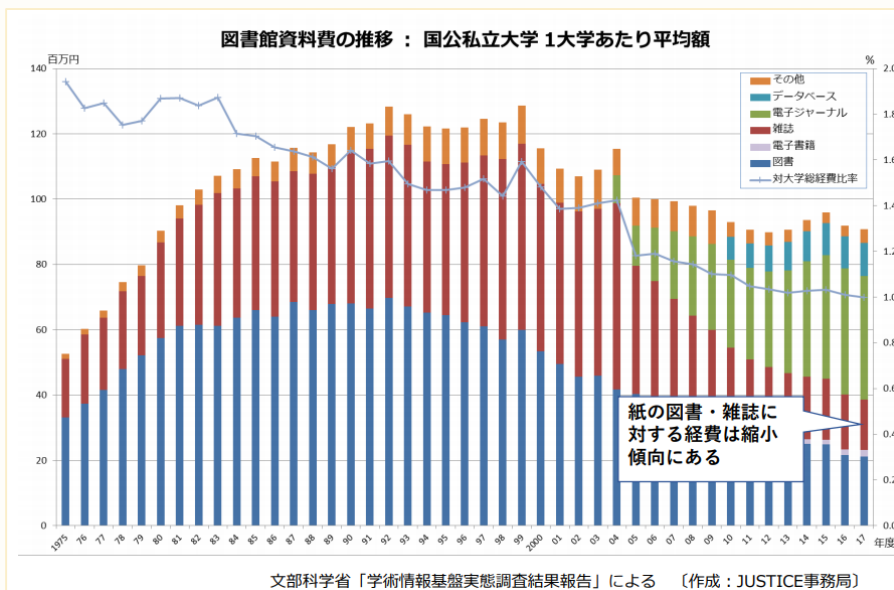
murakami_haruka@nii.ac.jp



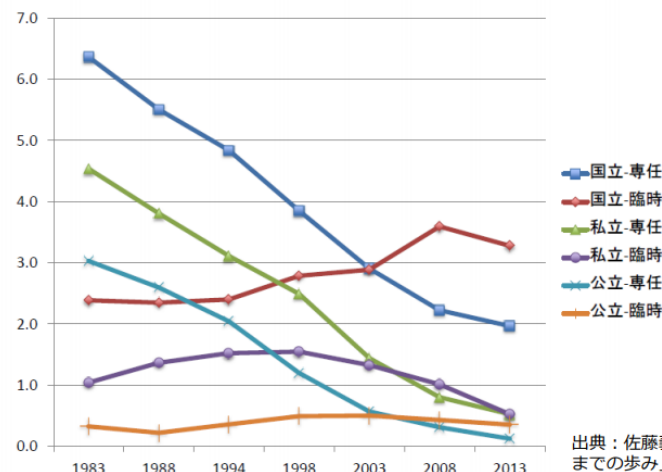
CAT2020が8月3日から開始しました。

コロナ禍で大変な中、みなさまご対応いただき
ありがとうございます。

なぜ、まだ変わらなければいけないのか。



大学図書館における目録担当者数の推移 (1大学あたりの平均人数)



「これからの学術情報システムの在り方について」 (2019年2月)

https://www.nii.ac.jp/content/korekara/archive/korekara_doc20190215.pdf

3. 進むべき方向性

これまでの検討を踏まえ、これからの学術情報システムが実現すべき機能及び検討課題について、以下の5点にまとめた。

- (1) **統合的発見環境**を可能にする新たな
図書館システム・ネットワークの構築
- (2) 持続可能な**運用体制**の構築
- (3) システムの**共同調達・運用**への挑戦
- (4) メタデータの高度化
- (5) 学術情報資源の確保

方針 ビジョン

これからの学術情報
システム構築検討
委員会

中央システム の提供

NII

個別課題の解決

図書館システム（ローカル）
電子リソース
メタデータ

システムワークフロー検討作業部会

運用

共同調達

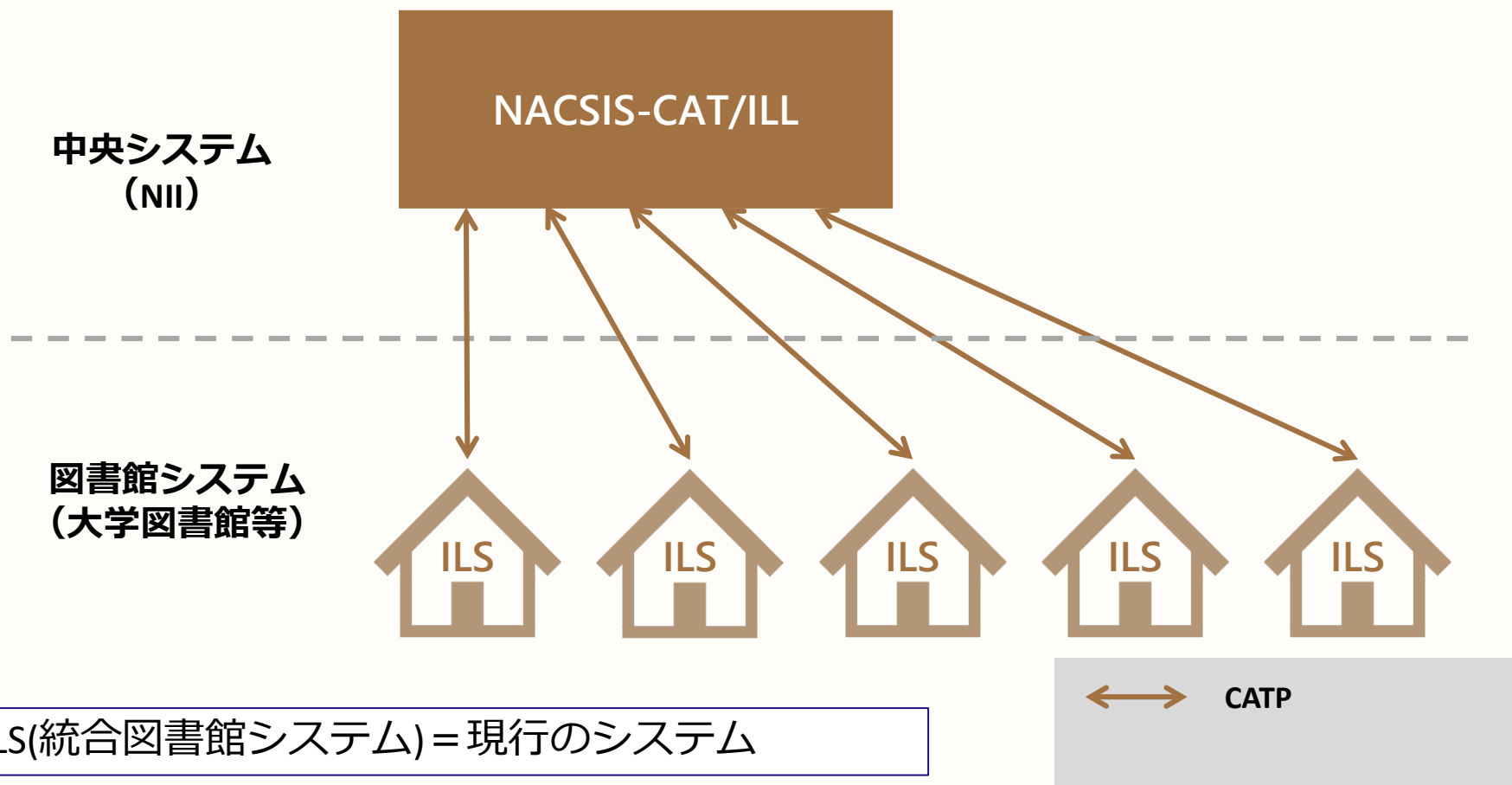
組織

コミュニティ

システムモデル
検討作業部会

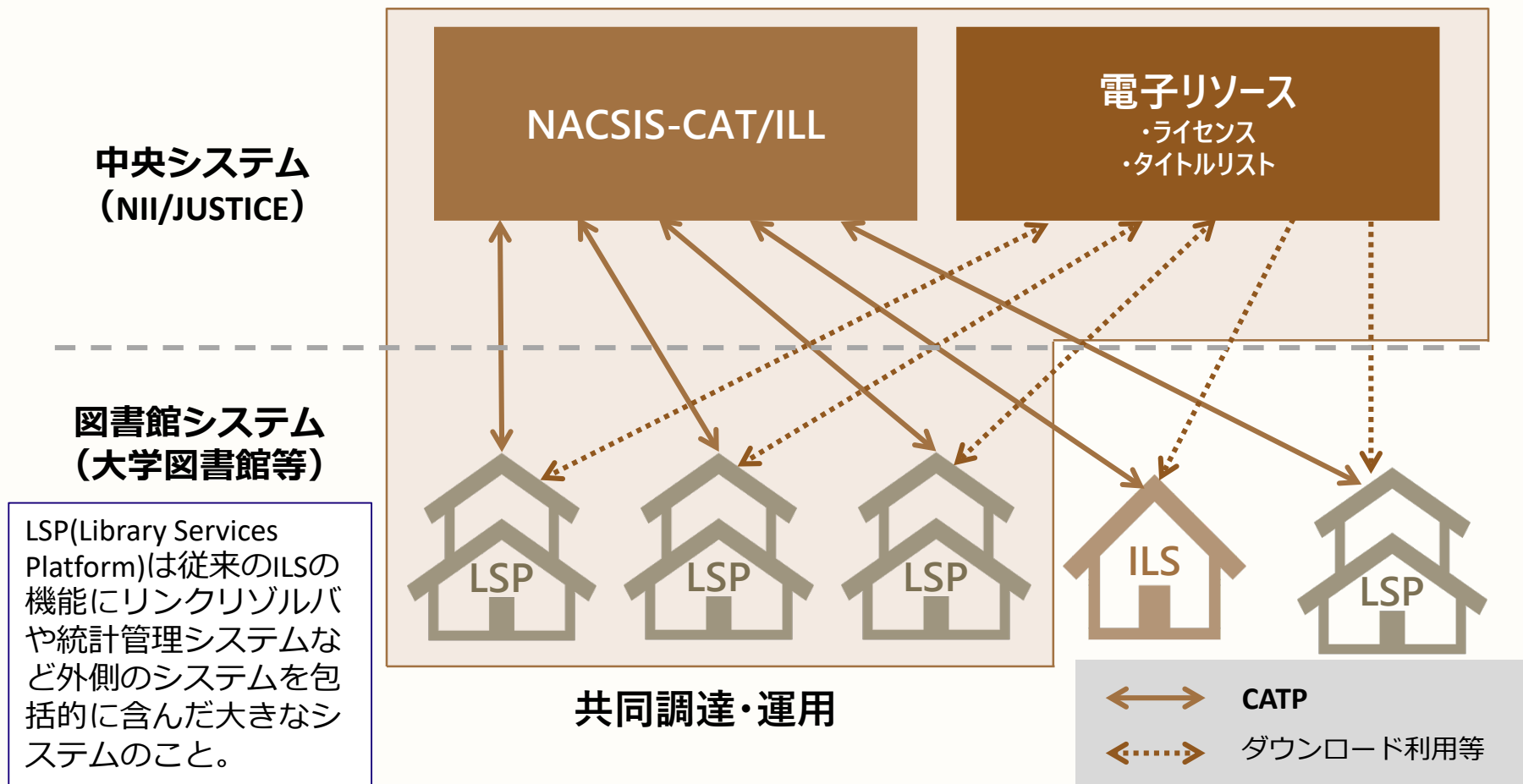
中央システムと図書館システム（現在）

- 印刷体に対応
- 中央システムも図書館（ローカル）システムも個別調達・運用



中央システムと図書館システム（これから）

- 印刷体と電子リソースに対応
- 中央システムと図書館（ローカル）システムの一部を共同調達・運用



共同調達

自動関係？

MARC

出版社

印刷体

現行CAT

ILL

MARC

出版社

電子情報資源

JUSTICE提案書

検索・DL・アップロード

ローカル

CATP

ローカル

ローカル

中央システムの開発方針（1）

（1）目録所在情報サービス機能を維持

現在の図書館システムからの接続方法（CATP）は
引き続き提供します。

- 現行のNACISIS-CATのデータ，機能がそのまま利用可能
 - 参照MARC (PREBOOK含む)も利用可能
- 現行のNACISIS-ILLの機能がそのまま利用可能
- CAT2020で追加された機能は踏襲

中央システムの開発方針（2）

（2）より豊かな機能を各機関が**選択的**に導入可能に

2－1）電子情報資源への対応

- **JUSTICE提案書**のタイトルリスト・ライセンス情報をあらかじめ登録，参加館が利用可能

2－2）業務効率化への対応

- 更なる流通データの活用による目録業務の効率化を支援

2－3）メタデータ高度化への対応

- 国際的なメタデータ標準への対応（NCR2018, RDA [目録規則], MARC21/BIBFRAME [メタデータフォーマット]

中央システムのスケジュール（予定）

		2020年度				2021年度				2022年度			
		1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
現行CAT・ILL													
次期CAT/ILL	検証												
	開発												
	運用準備												
	公開												
電子リソース機能	実証実験												
	運用準備												
	運用開始												

移行作業

ポイント

※大規模なシステム移行

- メタデータのマッピングの一部不具合、システム移行当初の動作不安定、スケジュール遅延など、予期せぬ事態が生じるリスク
- 次期システムへの移行のため、2022年度に**最大3週間程度**の停止期間が必要となる見込み

余裕を持って関係機関に事前に状況をお伝えするとともに、参加館からのフィードバックをいただきつつ、進めてまいります。

Let's walk together

